

開発経済学		講義	教授 大西 一成	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目 経営・経済コースの専門選 択科目	科目ナンバリング	23202206	

1. 授業のねらい・概要

開発経済学は、途上国が経済的に発展するなかで直面する貧困問題、農業問題さらには環境問題等をその対象とする。授業ではこうした諸問題に求められる基本的な考え方を先ずは体系的に取り上げる。なぜ経済発展を成し遂げる地域とそうでない地域があるのかといった視点に立ち、「経済発展」の意義あるいは理念についても取り上げる。改めて「豊かさ」とは何かを問い直すことを授業の基本的なねらいとする。経済発展に向けた理論的な考察力を身に着けることを狙いとする。また新たな動きとして台頭する「グローバル・サウス」の経済動向とその課題等についても明示的に取り上げる。

2. 授業の進め方

各種データ、資料については OA 機器を用いて受講者とともに読み進める形式を採用する。内容的には、理論と実例を中心に紹介し、板書に基づいた自筆ノートの作成を重視する。

3. 授業計画

1. イントロダクション (授業の進め方, 授業内容の概説)	9. 途上国の新たな問題点 (通貨危機, 債務問題)
2. 経済発展への歴史的過程について	10. 開発がもたらす格差問題①所得分配と国内格差
3. 開発経済における政府の役割, 民間の役割	11. 開発がもたらす格差問題①地域間格差
4. 開発経済学における基礎理論① (貧困と資源制約)	12. 日本・東アジアの発展が示唆するもの
5. 開発経済学における基礎理論② (資本蓄積と工業化)	13. 「グローバル・サウス」に観る新たな動きについて
6. 環境問題の発生① (開発と環境問題)	14. 経済発展に求められる新たな社会資本整備と技術
7. 環境問題の発生② (COP にみる国際関係)	15. 「開発経済論」における問題点の整理と今後の見通しについて総括する。
8. 工業化への課題 (労働力, 失業)	

4. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容については、授業の進度に応じて適宜伝える。こうした予習・復習に必要な時間は、概ね 2 時間程度は必要であろう。

5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

期末試験の採点結果は要求に応じて個人的に公表する。学期中の試験、レポート等については、解説とともに返却したい。宿題については、ミニッツ・ペーパーによる提出を求めるとともに、その解説は次の授業冒頭で行う。

6. 授業における学修の到達目標

人類が目指してきた開発と発展について、根本的に問い直す力の修得を目標としている。「豊かさ」や「合理性」あるいは「進歩」に対して自ら問い直す力の修得を目標としている。

7. 成績評価の方法・基準

授業への参加状況及び課題提出等 (30%), 学期末試験 (70%) によって評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは特に限定しない。授業において適宜、必要な論文、資料、データ等を配布する。参考文献は、高木保興 ((2002) 『開発経済学の新展開』(有斐閣, 2700 円+税) を挙げる。その他、

9. 受講上の留意事項

「グローバル化と国際社会 A・B」を履修済みであることが望ましい。授業では国際機関が発表する経済指標、経済見通し等を重視している。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。金融機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。